

秋田県議会議員 ともに、進もう。秋田の元気と笑顔のために。

鈴木まみ

真実

県議会報告
VOL.2

9月県議会 総括審査で まみが質問
令和元年10月4日

地域の実情を踏まえた地域医療を守る！

（再編・統合が必要とされた公立・公的病院の病院名）
公表に佐竹知事が「地方創生に逆行」と国を批判！

県内の5医療機関【湖東厚生病院（八郎潟町）、大館市立扇田病院、独立行政法人地域医療機能推進機構秋田病院（能代市）、横手市立大森病院、羽後町立羽後病院】が対象となり、住民に驚きと不安が広がっています。

湖東厚生病院では「県内一高齢者に優しい病院」を掲げ、リハビリや在宅医療にも力を入れており、今年4月から副院長に女性看護部長を置き、地域事情に寄り添い頑張っていると伺いました。また、経営の黒字化に向けた取組に努めており、収支状況も改善状況にあり、地域にはなくてはならない医療機関です。

Q 国は、なぜ、病院名を公表することとなったのか。意図は？

まみ 国は各都道府県に対し、2025年を見据えた新公立病院改革プラン等の計画について、各地域医療構想調整会議で協議し、合意することなどを求めているが、全国的に急性期病床の削減や回復期病床への転換が進んでいないことから、さらに取組を進めるために公表を行った。今回、高度急性期・急性期機能に着目した客観的なデータを国から提供し、それぞれの医療機関が今後の医療機能のあり方を改めて考える契機にしようとしたものである。

Q 県内の5つの病院が名指しされた審査の基準は何？

まみ 病床機能報告により、全国一律のデータを使って行われており、急性期病床のある公立・公的病院において、急性期の典型的な診療実績の数が十分かどうか、共通に分析を行った結果のものである。基準は下記の2つ。

- ①診療実績が特に少ない病院は、がんや心疾患などの9領域の診療実績に一定の水準を設け、各領域のすべてで、水準に満たないものとしている。
- ②構想区域内に、類似の診療実績を有する医療機関が2つ以上あり、かつ近接している病院は、がんや心疾患など6領域において診療実績はあるが、類似の診療実績を有する医療機関が車で移動距離20分以内に近接している場合である。

Q 全国一律の基準ではなく、地域の実情を踏まえるべき！
今回の国のやり方には疑問！

まみ 病院間の距離というが、図面上だけでは地域の実情は分らない。国では、来年9月までに「病院の役割の再検討を求め、地域医療構想調整会議での議論、合意を求める」ということだが、県として今後どのように議論を進めるつもりか。例えば、県内には県立病院がない中、一翼を担ってくれている厚生連など公立・公的病院が「停滞している再編・統合論議を活性化させるため、病院名公表という荒療治の対象となった」ことを踏まえ、今後の県の役割は大きなものがあると思う。住民も含め、関係者との協議をどのようにして進めていくか。

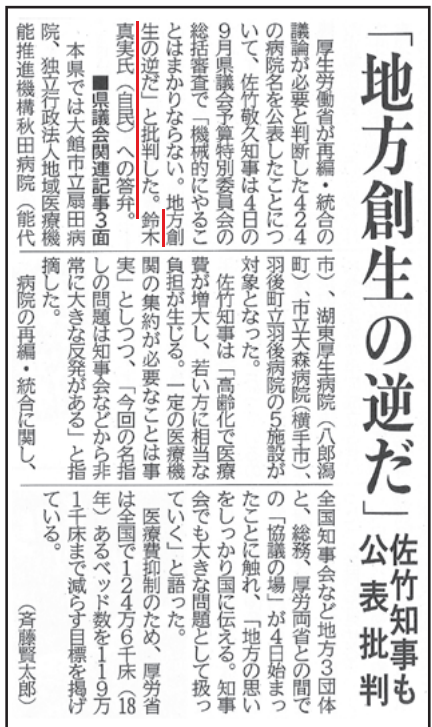
病院立地の地理的条件は様々あることは承知している。該当する病院からは、今後の病院機能についての考えを改めて伺ってまいりたい。その後、地域医療構想調整会議を開催し、今回使用された診療実績だけでは判断できない高齢者の急性期疾患や人口の散在状況などの各地域の固有の事情について、地域の関係者からの意見も十分踏まえながら、慎重に議論を進めていく。

Q 知事から地域の実情に合わせた今後の地域医療のあり方について、強い思いをお聞かせ願いたい。

まみ

今後、高齢化で医療費が増大し、若い方に相当な負担が生じる。こうした点からも医療機関のあり方の検討が必要なのは事実である。しかし、今回の公表方法は全国知事会、全国市長会、全国町村長会の地方3団体からも非常に大きな反発が出ており、国との協議の場が設置され、本日の会合があると聞いている。機械的にやることはまかりならない。地方創生に逆行である。地方の思いをしっかりと国に伝える。全国知事会でも、問題として取り上げ大きな問題として取り扱っていく。

まみ 国では、「人生100年時代」を唱え、高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくるのが重要な課題となっているというもの、今回の提案は、相容れないもの、厳しいものと感じずにはいられない。人口減少、少子高齢化の中、県内の地域では実は民間病院も減っている状況にもある。県としては、単に数字のみで議論するのではなく、それぞれの病院が地域で果たしている重要な役割を十分考慮し、地元の意見も十分にくみ取って、議論を進めていただきたい。



【秋田魁新報 2019年10月5日】

皆様からの、意見、要望、陳情、要請などは

自由民主党秋田県南秋田郡第一支部 支部長 鈴木真実

〒018-1513 南秋田郡井川町黒坪字小泉36

TEL・FAX 018-874-2112

県民と自由民主党
会派をつなぐ
Link リンク

発行／令和元年11月20日

ご質問、ご意見をお聞かせください。

編集／秋田県議会自由民主党会派 政務調査会
〒010-8570 秋田市山王四丁目一番一号【県議会内】
電話 018-860-2040 FAX 860-2102

県民と自由民主党会派をつなぐ

Link

リンク

2019.11 No.35

— 令和の時代、希望に満ちた秋田づくりを —

ごあいさつ

自由民主党会派 会長 鶴田 有司

日頃より秋田県議会自民党会派に対するご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

令和時代初の国政選挙の熱い戦いが終わり、わが自民党公認の中泉松司候補は残念な結果となりました。この選挙において支援して頂きました県民の皆様にご心より御礼申し上げます。今般の選挙は政治の安定を確保し様々な改革をダイナミックに進めて行くための重要な戦いであり、また外交や経済で世界が翻弄される激動の時代にあつて、日本と国民を守るためには「自由と民主主義」というしっかりとした哲学と「政治は国民のもの」という党是を持つわが党が勝たなければならない戦いでありました。

私たちは今回の選挙結果を真摯に受け止め、急速に進む人口減少と少子高齢化、激動する国際情勢など様々な課題が山積する中、県民の皆様が夢のある明るい未来をつくるためにこれからも全力で対処して参りますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



秋田県議会議員

鈴木真実

4月の統一地方選挙で皆様からのお力添えをいただき、鈴木真実が秋田県議会議員としての第一歩を踏み出してから7か月を経過しました。この間、地域で開催された行事、懇談会、要望活動などに積極的に参加し、常に生活者目線と女性の視点で皆様と一緒に政治活動を心がけてきました。その時々へ寄せられる私への期待は熱いものがあり、改めてその想いに何としてでも応えていかなければならないと、誓いを新たにしています。

年号が令和に変わり新しい時代を迎えました。社会経済情勢、国際関係の緊張が厳しさを増す中で、秋田県は人口減少や少子高齢化、雇用の確保、イージス・アショア配備問題などをはじめとする様々な課題は山積しております。今こそ将来ビジョンが必要であります。私に与えられた4年間は、南秋田郡の皆様が政治が身近に感じられ、信頼を持って参画してもらえるように、今後とも、**ふるさと南秋田の元気と笑顔のために**初心を忘れることなく全力で頑張ってまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

県議会 ◆ 農林水産委員会／議会運営委員会／政務活動費等検討会議委員 に所属
自民党県連 ◆ 女性局次長／広報委員